

令和5年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	7001	領域略称名	マルチスケール脳
研究領域名	マルチスケール精神病態の構成的理解		
領域代表者名 (所属等)	林 朗子（高木朗子） （国立研究開発法人理化学研究所・脳神経科学研究センター・チームリーダー）		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、社会的にも科学的にも意義が高く、かつ複雑な病態である精神疾患の理解を目指し、階層縦断的、種横断的で、かつ理論研究と実験研究、臨床経験者と基礎科学研究者を集めそのプラットフォームを形成し成果を上げたことは評価できる。精神疾患の正確な病態の把握とその症状の因果的理解は困難な目標であり、本研究領域でもって完了するものではないが、研究領域の目指す方向が正しいことをその成果により明確に示したと言え、本研究領域の設定目的に照らして、高いレベルの成果があったと評価する。

モデル動物での研究を中心としながらも、in silicoの解析、さらにヒト死後脳のマルチオミックス解析や数理モデル解析をつなげて精神疾患の理解につなげる multidisciplinary な研究は、本研究領域内にとどまらず、社会への発信も期待したい。特に、遺伝子異常-回路機能の異常-認知機能の障害という多階層をつなぐ研究を醸成するコミュニティの構築に成功したことで、今後の本研究領域の展開に大いに資するものと評価できる。